

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 12月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	2274201579
法人名	株式会社 日本ケアクオリテイ
事業所名	グループホーム ともえ
所在地 (電話番号)	静岡市葵区上土1丁目17-95 (054-267-2701)
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年11月21日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	13.9 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(65,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 82.7 歳	最低 74 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	こじまクリニック、山田歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静岡市東北部にある巴川近く建てられた「ともえ」は、静かな住宅街の一角に併設した保育園を持つグループホームである。毎日繰り返される園児たちの遊ぶ姿や元気のある声を見聞きしながら、のんびりと暮らす利用者の姿は印象に残る。町内会の防犯訓練、夏祭りなどの行事の他、廃品・廃紙の回収等、地域との結びつきを力点に置いた真の地域密着型サービスを目指しており、保育園を介在として地域住民との交流も盛んに行われている。利用者が地域の中でその人らしく生活することを支えるケアを職員間での話し合いの下、利用者個々のライフスタイルや性格を尊重した支援や、訪問看護師による健康アドバイスも取り入れるなどして利用者の健康面での配慮もしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価での改善項目では改善の跡が見られるが、運営推進会議の開催、自己評価のあり方などにおいて、更に一工夫した取り組みが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に当たっては職員にそれぞれの項目を割り振って意見を求め、ホーム長及びユニットリーダーが集計しているが、評価に対する事後の改善措置等が職員に行き渡っていない他、外部評価についても職員の理解を得るための取り組みが十分とはいえない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は諸般の事情から本年(平成20年)に入ってから開催されていないので早期開催が望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会に来られた時に声掛けし、意見や苦情等を聴取するようにしているが意見・苦情等があった記録はなく、外部評価時のアンケートにも苦情等は寄せられていない。なお、家族等から意見・苦情を受けた場合は職員間で話し合う事としている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内の防災訓練、敬老会、夏祭りなど参加し、廃品回収、古紙回収なども積極的に行っている。また、隣接の保育園を通じて地域との接点を持つなど、地域の一員として地元の活動や地域住民との交流に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時に職員全員で話し合いがされ、利用者が地域と触れ合う中でその生活を支えるケアの実施をホームの理念としている		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員が目につきやすい事務所に掲示したり、ユニット会議の場などにおいて意識付けを図っている。また、サービス提供の場面においても利用者本位のケアが実行されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の防災訓練、敬老会、夏祭りなど参加し、廃品回収、古紙回収なども積極的に行っている。また、隣接の保育園を通じて地域との接点を持つなど、地域の一員として地元の活動や地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に当たっては職員にそれぞれの項目を割り振って意見を求め、ホーム長及びユニットリーダーが集計しているが、評価に対する事後の改善措置等が職員に行き渡っていない他、外部評価についても職員の理解を得るための取り組みが十分とはいえない。	○	評価の狙いや活用方法を全職員が理解するためには、職員との話し合いが重要であることを認識し、評価の一連の過程を通じてサービスの質の確保・向上に繋げていくための改善計画の策定が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、諸般の事情から平成20年にはいつてから開催されていない。	○	開催にあたっては報告や情報交換に留まらず、話し合いを通じて会議メンバーから率直な意見や地域との交流が得られるように働き掛けをするなど早期開催が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の届書等提出の際に市の担当部所に出向き、お互いに連携を図るように努めているが、まだ十分な連携までには至っていない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月定期的に「ともえ通信」を発行し、日々の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等を報告している。また、家族等の訪問時や健康状態の変化などにおいてもその都度連絡相談し、家族等との関係を密にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時、声掛けし意見や苦情等を聴取するようにしているが、意見・苦情等の記録はなく、外部評価時のアンケートにも苦情等は寄せられていない。なお、家族等から意見・苦情を受けた場合は職員間で話し合うこととしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	どの利用者にも対応できるようユニット間の異動を行って、職員の異動・交替によるリスクを少なくするための努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連法人内における研修には職員育成の場として全員が参加している。外部における研修については、声掛けや掲示によって参加を促している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各ホームとの会合に出席したり、ケアマネジャー協会の会議に出席しているが、職員を含めた地域同業者との交流までには至っていない。	○	現在地域での交流を主とした集まりはないが、ホームのサービスの質の確保のためには、他法人の同業者との交流や連携が不可欠であることを認識し、他の同業者とのネットワークづくりや勉強会等ができるよう努力を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	訪問面談をしたり、家族等によるホームの見学には細部に亘り話し合った後、利用者本人にホームの日常生活の雰囲気を覚えてもらい、適性を見極めて入居を決めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や経験則に照らした関係づくりに配慮し、支援する側・支援される側といった垣根を取り外して利用者本人から学んだり、お互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が利用者と同じ目の高さになり、家族のように触れ合い会話し、コミュニケーションを取っている。その為利用者は職員を信頼して自分の思いなどを自然と表せるなどよい関係が築かれており、職員は利用者の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニットごとにカンファレンスを定期的に行っている。家族とも話し合い本人の意見も聞いたり、職員の意見も取り入れながらそれらを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2、3ヶ月に1度モニタリングをしている。状況に変化があった場合や、本人、家族から要望があった場合にはその都度見直し、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者個々のライフスタイルを大切に洋服や本、飴などの買い物へ、その時々々の要望に応じている。また、一緒に食材の購入をしたり外食もしている。病院の受診等も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ利用者のかかりつけ医を継続して受診している。希望によっては、協力医療機関を紹介し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に家族と話し合っている。法人としても、重度化及び看取り介護同意書が作成されており、利用者の状態によりその都度対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの違いも理解しており、誇りやプライバシーを損ねるようなことのないよう細心の注意を払い冗談を交し合いながら明るく対応している。また、個人情報の取り扱いについても十分配慮しており、名前の入っている資料は鍵のかかるロッカーで管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の「利用者には出来るだけ自由な生活を保障してあげたい」という言葉からも推察できるが、一人ひとりの思いを大切にしており、利用者は、それぞれに、自分らしさを出せる生活が垣間見られた。新聞、広告、漫画、オセロなど楽しんだり、個々の必要に応じて買い物にも出掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞いて献立を作ったり、食事の準備や片付けなども利用者の力に応じて一緒にしている。利用者、職員共に困む食事は楽しみなものになっており、会話が弾み、ゆったりとした団欒のひとつときとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は利用者の希望に応じている。入浴拒否の利用者には準備を手伝ってもらったり入浴剤を入れたり、一緒に歌ったりなど楽しんでもらえるように努力をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの理解に努めており、できる限り個別的な対応をしている。利用者の思いを大切にされた支援がなされている為、利用者には落ちついた自由な暮らしがあり、主体的な行動が見られる。日々の園児とのふれあいも効を奏しており、大きな気晴らしのひとつとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望を大切にしている。保育園の庭で園児と一緒に遊んだり、椅子に腰掛けて日向ぼっこしながら眺めるなど、日常的に支援されている。また、食材の買い物や近くへ散歩に出掛けたり、飴を買いに行くなど個別的にも対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていない。門は保育園と同じであり、園児の安全の為閉めていたりするが、利用者の把握に努めながら対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回実施しており消化訓練、消防署による応急手当の講習も実施している。また、災害に備えて備蓄・防災頭布・防災カーテンなども用意されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を把握し、少ない場合には補充するよう支援している。職員は栄養バランスについて意識的に取り組んでおり、利用者の好みも取り入れながら献立を作っている。また、個人的に食事量や形状なども配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には椅子が置かれ、園庭で遊ぶ子どもと関われるようになっている。また、1階ユニット窓側に小さな畳が用意され日向ぼっこしながら外を眺められるなど工夫されている。居間、廊下なども広く、壁には季節感のある作品や写真が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、それぞれ馴染みの家具を持ち込んでいる。利用者の生活暦のわかる作品や写真なども飾られており、その人らしい雰囲気のある居室となっている。		